

デイ・ケア診療部

Psychiatric Day Care Unit

デイ・ケア診療部長
村井 俊哉



早期回復から 生活の自立をめざして

精神疾患により心身の機能に不調をきたした方々に対し、入院中から退院後まで連携して作業療法、デイ・ケアプログラムを行い、早期回復から就労、生活の自立に向けて、精神科リハビリテーションサービスを提供する。

代表的診療対象疾患

統合失調症、うつ病・躁うつ病などの気分障害、パニック障害・強迫性障害・社会不安障害などの神経症性障害、摂食障害、てんかん、広汎性発達障害などの精神疾患

業務内容の特徴と実績

専門職によるチームアプローチを実施

デイ・ケア診療部は、1989年にリハビリテーション構想の中の精神障害部門として、国立大学医学部附属病院の中では日本で初めて設置された。医師、看護師、作業療法士、臨床心理士の各専門職で構成されるチームアプローチを行っている。2002年には入院患者へのリハビリテーションを実施するため、作業療法室が併設された。

精神科作業療法では、急性期精神症状の早期安定を目的として、精神科急性期病棟内でリラクゼーショングループ、基本機能回復グループ、基礎体力回復グループを実施している。作業療法室では、他者と場を共有しつつ、個々の状態に応じた活動ができるパラレルOTを実施している。さらに退院後のデイ・ケア利用を円滑にするため、入院中からデイ・ケアプログラムを利用するプレ・デイ・ケアを実施している。

デイ・ケアでは、心身機能の回復、対人交流の促進、現実検討力の向上や技能習得、生活の自立を目標に、グループ活動、スポーツ、茶話会、気

功体操、音楽グループ、料理グループ、就労準備グループ、社会資源見学、喫茶などのプログラムを実施している。



その他の取り組み

認知行動療法プログラムを導入

統合失調症患者に対してグループで認知行動療法を導入することにより、自立した生活、就労をめざした取り組みを行っている。

